

氏名（本籍）	ホシ 星	ノ 野	ヒロ 宏	ミ 美（東京都）
学位の種類	博士（音楽）			
学位記番号	博音第45号			
学位授与年月日	平成13年3月28日			
学位論文等題目	論文 メンデルスゾーンの『スコットランド』交響曲の成立史研究			
論文等審査委員				
（主査）	東京芸術大学	助教授	（音楽学部）	土田 英三郎
（論文第1副査）	〃	教授	（〃）	船山 隆
（副査）	〃	助教授	（〃）	片山 千佳子
（〃）	〃	〃	（〃）	大角 欣矢
（〃）	神戸女学院大学	教授	（〃）	角倉 一朗

（論文内容の要旨）

メンデルスゾーンの「スコットランド」交響曲の成立史研究

本論文はフェーリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ Felix Mendelssohn Bartholdy(1809～1847)の《交響曲 第3番 イ短調》(作品56)、通称「スコットランド」の成立史を原典資料を詳細に扱って再構築し、それによって作品と作曲家に新たな光を当てるものである。

この交響曲は疑いなくメンデルスゾーンの代表作のひとつであり、「スコットランド」という通称とともに、彼がその地で着想を得たという伝記上の情報もあまねく流布している。作品がその成立の事情と併せて親しまれていると言えるが、スコットランドでの着想はこの交響曲の成立史の一端でしかない。もうひとつの重要な側面は、1829年の着想が完成(1842年初演、1843年初版)まで約13年の歳月を要したという事実である。本論文では、一般によく知られた着想の起源だけでなく、これまでは詳しく扱われることのなかった完成までの道のりをも克明に追い、従来の研究が無批判に繰り返してきた「スコットランド」交響曲の成立史 - 1831年から1841年をブランクと見なす - の書き換えを試みる。

その際、「スコットランド」交響曲と並行あるいは前後して取り組まれた他の交響曲的作品をも考察に取り入れるのが本論文の特徴である。それらの作品がメンデルスゾーンの創作の現場において「スコットランド」交響曲と密接に関わっていたことを明らかにするとともに、「スコットランド」交響曲の約13年の成立史において彼が目指した理念、あるいは直面した問題をそこから読み取ることができるからである。そして、1831年から1841年までの間をメンデルスゾーンが「スコットランド」交響曲に従事する意志を持ちながら、それを進展させることができなかつた模索の時期として継続的に捉え、この作品の作曲の最終段階に導く試行錯誤と作曲法の深化を認める。それによって、「スコットランド」交響曲の成立史の特殊性を確認するとともに、メンデルスゾー

ンにとってのこの作品の意味と重要性を浮き彫りにする。

第1章でまず本論文の出発点を確認する。旧全集を糸口に、一般に知られているメンデルスゾーンの交響曲5曲を概観した後、新全集刊行によって初めて世に出された初期シンフォニアや、その他の知られざる交響曲に言及し、新しいメンデルスゾーン像の構築に向けての近年の動きを紹介する(以上、第1節)。

第1章の後半(第2節)では、本論文で用いる資料を概観する。当該作品の原典楽譜資料は本論文において初めてその全体像が提示されるが、今回の調査では手稿譜13点(ただし散逸したものも含む)と出版譜5点の計18点を確認した。これらの楽譜資料からはとくに、1841/42年のスコア起草から初演後の改訂、出版準備中の手直しまでを詳しく辿ることができる。本論文ではまた「スコットランド」交響曲に関わるメンデルスゾーンの書簡(未出版のものを含む)を網羅的に扱う。そこからは、メンデルスゾーンが1832/33年、1834/35年、1837/38年に「スコットランド」交響曲の作曲への意欲をはっきりと語っていることが確認される。

第2章から第4章までが本論文の中核、すなわち、「スコットランド」交響曲の成立史である。次の3段階に従って3章構成をとる。・1829年夏の着想からの約1年間。序曲《ヘブリディーズ諸島》と密接な関連(第2章)。・1830/31~1835年。「イタリア」交響曲と密接な関連(第3章)。・1840~1843年(1835~1839年は準備期として捉える)。《賛美の歌》および《ヴァルプルギスの夜の始まり》と密接な関連(第4章)。なお、成立史の考察の際には、作曲家の創作の現場にも立ち入り、彼が模索し、実現した音楽的特徴をも論じる。それを通して、着想の地スコットランドの印象が色あせることなく、完成した交響曲の全体の基調とされていること、それによって大規模な形式を統一したこの作品は当時、メンデルスゾーンの新しい独創的な、そして全体に緻密な構築性を備えた交響曲として立ち現れたことを明らかにする。

結論では、第2章から第4章の考察で前面に出てきた問題を扱い、作曲家としてのメンデルスゾーン像の再考の契機とする。メンデルスゾーンは自作の出版にあたって入念な吟味と大小の改変を行い、さらには自ら厳密に校正した。それは作曲の最終段階となり、作品はこの作業を経て初めて完成されたのである。その意味では、「スコットランド」交響曲は、彼が完成させた最初で最後の交響曲として捉えられる。また、メンデルスゾーンは交響曲の発表にあたってタイトルを与えず、着想の起源を厳格に伏せた。このことを踏まえて、「スコットランド」という通称の妥当性を再考する。